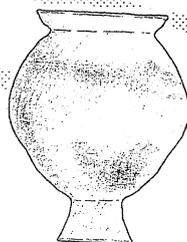


埋藏文化財 愛知

No. 37



シリーズ 発掘が語る食文化

縄文・弥生時代の食生活

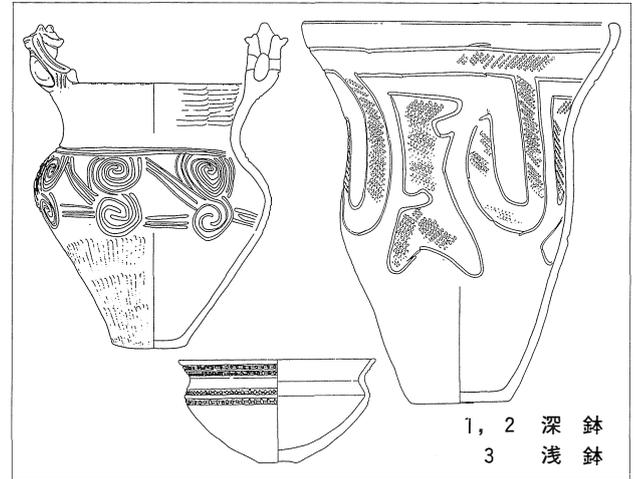
食物は有機物であるため、食べた物そのものが遺跡において残るということは、貝塚などの一定の条件のもと以外では稀で、土器から把握できる“器の組み合わせ”のような全体像を直接的に復元することはきわめて難しい。そのため、残存状況のよい種類の食材を過大に評価してしまったりすることが多く、“食文化”を考える場合、遺構や土器の形態、民俗事例などから間接的に類推せざるをえないということになる。

以降この文ではこのような制約を踏まえつつ、この地方における縄文～弥生時代の食文化、特に植物食について述べていきたい。

縄文時代

縄文時代の食生活については、貝塚などから多量の動物・サカナの骨・貝が出土することや、それ自身目的の明確な形態をもつ銚や釣針・石鏃などの狩猟・漁撈具が特筆して取り扱われていたため、動物食に偏った食文化が重要視されており、残りにくい植物食に関してはあまり注目されてこなかった。この植物食軽視の研究に異を唱えられたのは渡辺誠氏で、渡辺氏は『縄文時代の植物食』雄山閣、1975などにおいて、縄文時代前・中期の土器文化圏が動物相の分布ではなく植物相の分布と重なってくることや、加工のための土器や石器・編布・カゴの製作、貯蔵のための大型住居や貯蔵穴の出現、抜歯などからみて男(=狩猟)と女(=採集・加工)に差はみられないことから、植物食、特に堅果類が食生活に占める位置が大きかったことを指摘された。

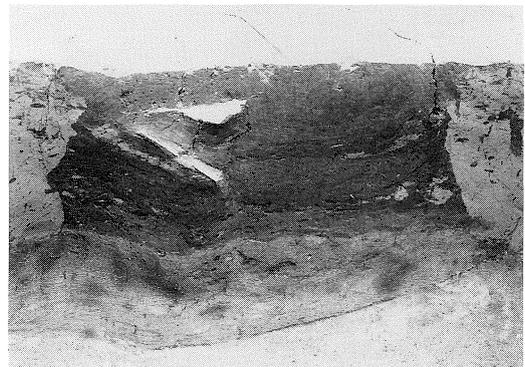
堅果類のうちクルミ・クリ・ドングリ類・トチが遺跡より出土する比率が高く、殻の硬度によって遺存率に違いがあるにせよ、この4種が主要なものであった可能性は高い。このうちドングリ(クヌギ・ナラ・カシ)とトチは、食用にするためにはアク抜きが必要である。そのため、水さらしや加熱処理、灰汁を加える処理などが行われ、土器や編布・カゴが使用されている。アク抜きに前後して殻を剥き粉にする工程があるが、これには石皿・敲石・磨石が用いられる。実際に食べる場合にはパン状・クッキー状炭化物という名称で呼ばれる遺物のようにこね



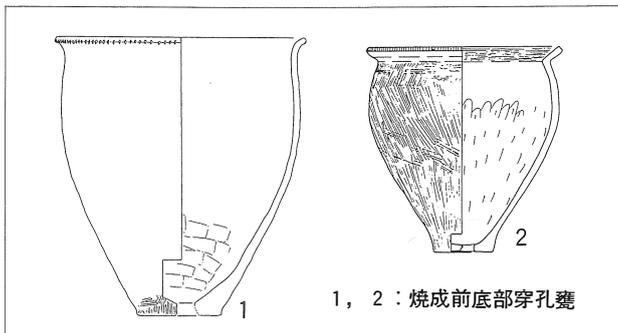
(1, 2 朝日遺跡：縄文時代後期,
3 東光寺遺跡：縄文時代晩期)

て丸めて食べるものと、粥のようにして食べるものがあったようである。また、縄文土器特有のキャリパー形を呈する深鉢は、アク抜きの水替えに際して内容物の流出を防ぐという目的に、浅鉢はこね鉢として使用されたと考えられている。

さらに、植物食は動物食に比べて格段に長く保存することが可能で、地面に穴を掘って保存する貯蔵穴が遺構として見受けられる。弥生時代の環濠集落として著名な清洲町朝日遺跡でも溝状の落込みの下部より、縄文時代後期に属すると思われる2基の貯蔵穴が発見されている。このような低湿地部の貯蔵穴は、地下水に浸けることによるアク抜きという説もあるが、乾燥して皮剥きなどの手間がかからないように低地に設けられたという説もある。その場合長期にわたると発芽などがおこるため、短



貯蔵穴(朝日遺跡：縄文時代後期)



(1 月繩手遺跡: 弥生時代前期, 2 朝日遺跡: 弥生時代中期)

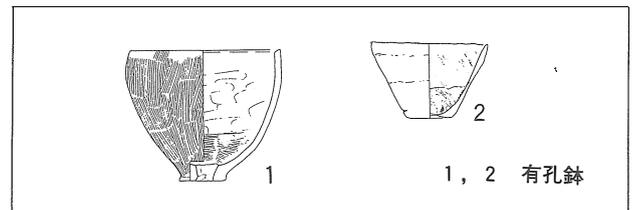
期の貯蔵用であったとされており、長期の場合はよく乾燥させて屋根裏などに置かれたとされている。

弥生時代

弥生時代の植物食といえはすぐに「米」があげられるほど、稲作と弥生時代とはきってもきれないように思われているが、その実体、特に食べ方については不明な点が多い。

米の栽培の始まりについては、最近では縄文時代後期にまで稲作の可能性が指摘されるようになり、「米作り」= 弥生文化という単純な図式はなりたたなくなってきた。それでは弥生時代の始まりをどのように考えるかという、前述したとおり縄文時代でも植物食は重要な食材であり、おそらく「米」もその一部として取り入れられていたであろうが、植物食の中で「米」の占める役割が増大し、それが土器や信仰など社会全般に変化を起こすようになった時点が弥生時代の始まりになるものと思われる。

一般に北九州に始まる「遠賀川土器」の東進とともに稲作文化が東に拡大していったとされているが、最近の研究では、西日本では縄文時代晩期のうちに、「深鉢・甕」が「壺」に次第に変容していくことがわかってきており、それと同時に縄文時代を特徴づける「浅鉢」がみられなくなってしまう。これは、弥生時代に主要な器となる貯蔵の役割をもつ「壺」が、縄文時代晩期のうちに発生しつつあったということ、また同時に浅鉢の消失は堅果類などを食用にする割合が低くなってきていたことを示している。ただ、知立市の西中神明社南遺跡より弥生時代前期の貯蔵穴が発見されており、弥生時代になると、米を炊く場合の「かさ増やし」のような補完的な食物としての役割となっていったのであろう。

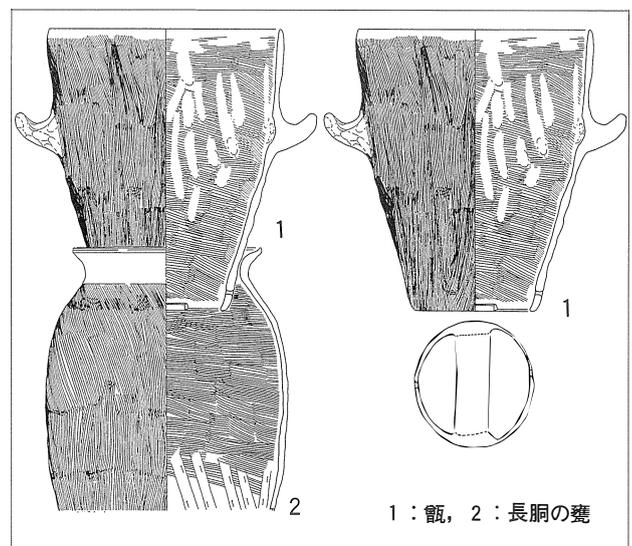


(1, 2 朝日遺跡: 弥生時代後期~古墳時代前期)

それでは「遠賀川土器」の伝播で何が変わったかという、食生活の面からみると、「甕」と思われる焼成前に底部に孔を開けられた土器・甕の出現があげられる。この焼成前底部穿孔甕は甕の中でも少量しか出土せず、儀礼的な場面に使用されていた可能性も考えられるが、「蒸す」という行為が初めて土器に示されたものである(縄文時代の深鉢のキャリパー形という形も「蒸す」という用途に適しているとの見解もあるが、その場合も蒸し器専用であったわけではない)。

この「焼成前底部穿孔甕」は中期の内に姿を消し、それとともに台付甕が盛行する。以後この地方ではわずかな「有孔鉢」を除いて土器に甕としての用途を窺わずものはみられなくなる。ただ台付甕が使われる地域以外の、特に畿内を中心とした西日本では有孔鉢が多く見受けられ、弥生時代後期から古墳時代にかけての有孔鉢の有無が問題となるであろう。

その後、再び土器が甕としての役割をもつのは、須恵器から転化した甕が出現する古墳時代後期をまたねばならないのである。(調査研究員 宮腰健司)



(大淵遺跡: 古墳時代後期)

平成6年度 事業計画

(財)愛知県埋蔵文化財センター

- ◇埋蔵文化財発掘調査 合計 73,750㎡
1. 田所遺跡(一宮市)〈東海北陸自動車道〉
4,600㎡
 2. 大毛沖遺跡(一宮市)〈東海北陸自動車道〉
14,700㎡
 3. 大毛池田遺跡(一宮市)〈東海北陸自動車道〉
15,300㎡
 4. 西上免遺跡(尾西市)〈東海北陸自動車道〉
5,000㎡
 5. 門間沼遺跡(葉栗郡木曾川町)〈東海北陸自動車道〉
20,400㎡
 6. 一色青海遺跡(中島郡平和町)
3,900㎡ 〈日光川上流流域下水道〉
 7. 正楽寺跡儀長寺通遺跡(稲沢市)〈県道馬飼井堀線〉
5,170㎡
 8. 鳥羽城跡(幡豆郡幡豆町)〈県道西尾幡豆線〉
3,180㎡
 9. 清洲城下町遺跡(西春日井郡清洲町)〈五条川改修〉
1,500㎡
- ◇出土遺物等の整理
広坪遺跡 烏帽子遺跡 清洲城下町遺跡(VI)
- ◇報告書の刊行
- | | |
|----------------|------------|
| 54集 清洲城下町遺跡V | 57集 牛ノ松遺跡 |
| 58集 島田陣屋遺跡 | 59集 吉田城遺跡Ⅱ |
| 60集 名古屋城三の丸遺跡V | 62集 川地遺跡 |
| 64集 刀池古窯跡群 | |
- ◇埋蔵文化財展の開催
稲沢市勤労福祉会館 8月20日～9月4日
テーマ「尾張のクニ・國・藩」
- ◇埋蔵文化財講演会の開催
稲沢市勤労福祉会館 8月28日 講師 八賀 晋氏
演題「国府と国分寺——尾張と美濃——」
- ◇広報紙の発行
「愛知県埋蔵文化財情報」「年報」「埋蔵文化財愛知」
- ◇発掘調査技術等研修会の開催
- | | |
|-------|-----------|
| 基礎研修会 | 10月6・7日 |
| 専門研修会 | 11月10・11日 |

愛知県教育委員会実施の調査事業

愛知県教育委員会文化財課

県教育委員会は、遺跡の周知徹底を図り、開発事業との調整・協議のための基礎的資料の作成を、市町村教育委員会の協力をえてすすめているが、本年度は次に掲げる事業を実施していく。

(1) 中世城館跡調査

文化財課では、本年度から平成8年度(3か年)にかけて東三河地区の中世城館跡調査を実施する。調査方法は、関係市町村教育委員会の協力の下に現地踏査、縄張図作成を行い、同時に関連する文献・地誌・絵図・地籍図を検索し、必要に応じてそれらの撮影・複写を行う。

(2) 万博候補地内遺跡詳細分布調査

西暦2005年に開催が予定されている万国博覧会の会場候補地に内定した瀬戸市東南丘陵の遺跡分布調査を昨年まで2か年にわたって実施したが、本年度はその報告書作成を行う。

(3) 重要遺跡指定促進調査

県内所在の遺跡については、遺跡の範囲・性格・出土遺物の有無を正確に把握し、それらのデータを遺跡台帳及び遺跡分布地図に登載しておくことが肝要であり、将来の史跡指定への第一歩でもある。本年度は、昭和62年度に作成した『愛知県遺跡分布図(Ⅱ)——西三河・知多地区——』の改訂を行う。

(4) 第7回埋蔵文化財調査研究会の開催

県内の埋蔵文化財担当専門職員が発掘調査成果の発表をとおして、情報交換と研鑽に努めることを目的に開催する。内容は、平成5年度に実施された発掘調査のうち8遺跡の発表と、自然科学データについての事例発表を予定している。

開催日 平成6年7月8日(金)

会場 愛知県埋蔵文化財調査センター

愛知県埋藏文化財担当専門職員名簿

愛知県教育委員会文化財課 主査 赤羽一郎 教育主事 磯谷和明・安藤義弘	☎052-961-2111	新城市教育委員会生涯学習課 主事 渡辺敬一・鈴木隆司	☎05362-3-4741
愛知県埋藏文化財調査センター 所長 明壁正毅 主査 梅本博志	☎0567-67-4164	豊橋市教育委員会文化振興課 事務吏員 賛 元洋・小林久彦・岩瀬彰利・赤木 剛	☎0532-47-2017
愛知県陶磁資料館 学芸課長 柴垣勇夫 主任学芸員 浅田員由・仲野泰裕・井上喜久男 学芸員 野末浩之・森 達也	☎0561-84-7474	豊川市教育委員会生涯学習課 主事 林 弘之	☎05338-9-2158
		一宮町教育委員会社会教育課 主事 須川勝以	☎05339-3-3013
		田原町教育委員会文化財課 主事 増山禎之	☎05312-2-1720
名古屋市教育委員会文化財課 学芸員 小島一夫・竹内宇哲	☎052-961-1111	名古屋市見晴台考古資料館 学芸員 山田鉦一・松村冬樹・川合 剛・野口泰子 平出紀男・水野裕之・伊藤正人・伊藤厚史 服部哲也・尾野善裕・木村光一・村木 誠	☎052-823-3200
瀬戸市教育委員会文化財課 主事(学芸員) 服部 郁・服部文孝	☎0561-82-0687	一宮市博物館 学芸員(係長) 土本典生	☎0586-46-3215
春日井市教育委員会民俗考古調査室 室長 大下 武 主事 村松一秀 嘱託 梅田純代・桐山智義 非常勤 澤村雄一郎	☎0568-33-1113	(財)瀬戸市埋藏文化財センター 係長 藤澤良祐 主任 岡本直久 調査員 松澤和人・金子健一・青木 修・佐野 元 河合君近	☎0561-21-1951
犬山市教育委員会生涯学習課 事務吏員 平松久和		江南市歴史民俗資料館 嘱託 宮川芳照	
小牧市教育委員会社会教育課 文化振興係長 中嶋 隆 主事 坪井裕司	☎0568-72-2101	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館 主任 野口哲也 主事 大矢 頭	☎052-409-1467
稲沢市教育委員会社会教育課 主査 北條献示 主事 日野幸治	☎0587-32-1111	美和町歴史民俗資料館 学芸員 鎌倉崇志	☎052-442-8522
師勝町教育委員会社会教育課 主事(学芸員) 市橋芳則		弥富町歴史民俗資料館 学芸員 伊藤隆彦	☎0567-65-4355
津島市教育委員会社会教育課 主事 萬谷さつき	☎0567-24-1111	半田市立博物館 館長 立松 宏 学芸員 近藤英正	☎0569-23-7173
甚目寺町教育委員会社会教育課 事務吏員 内山伸也	☎052-444-1621	常滑市民俗資料館 学芸員 中野晴久	☎0569-34-5290
東海市教育委員会社会教育課 文化係長 立松 彰	☎052-603-2211	武豊町歴史民俗資料館 書記 奥川弘成	☎0569-73-4100
知多市教育委員会生涯学習課 書記 伊藤久仁洋	☎0562-33-3151	安城市歴史博物館 学芸員 岡安雅彦・天野信治 主事 伊藤基之	☎0566-77-6655
南知多町教育委員会社会教育課 嘱託 磯部幸男	☎0569-65-2880	三好町立歴史民俗資料館 館長 安田幸市	☎05613-4-5000
岡崎市教育委員会社会教育課 主査 荒井信貴 嘱託 伊藤久美子	☎0564-23-6177	足助資料館 派遣主査 鈴木昭彦 嘱託 鈴木茂夫	☎0565-62-0387
西尾市教育委員会社会教育課 主査 松井直樹 学芸員 鈴木とよ江	☎0563-56-2459	設楽町奥三河郷土館 館長 鈴木富美夫	☎05366-2-1440
知立市教育委員会文化課 主事 岡本茂史	☎0566-83-1133	蒲郡市博物館 学芸員(主査) 小笠原久和	☎0533-68-1881
豊田市教育委員会文化財保護課 主査 松井孝宗・森 泰通・児玉文彦 主事 杉浦裕幸	☎0565-32-6561		
稲武町教育委員会 係長 長江洋一	☎05368-2-2511		

(平成6年6月1日現在)

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 名簿一覧

役員

理事長	安部 功
常務理事	倉知 昌視
理事	
野村 光宏	愛知県教育委員会教育長
井関 弘太郎	名古屋大学名誉教授
伊藤 秋男	南山大学教授
大参 義一	愛知学院大学教授
坪井 清足	財団法人大阪文化財センター理事長
檜崎 彰一	名古屋学院大学教授 (名古屋大学名誉教授)
名倉 庸一	都市教育長協議会会長(西尾市教育長)
清水 榮一	町村教育長協議会会長(小坂井町教育長)
蛇川 雄司	愛知県土木部長
島田 利	愛知県教育委員会社会教育部長
武田 晋	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館館長 (清洲町長)
山田 敬二	愛知県陶磁資料館館長
監事	
竹本 光雄	愛知県出納事務局次長
野口 雅章	愛知県教育委員会管理部総務課長
専門委員	
考古学	檜崎 彰一 名古屋学院大学教授 (名古屋大学名誉教授)
文献史学	福岡 猛志 日本福祉大学教授
地理学	海津 正倫 名古屋大学助教授
建築史学	小寺 武久 名古屋大学教授
考古学・ 動植物	渡辺 誠 名古屋大学教授
形質人類学	池田 次郎 京都大学名誉教授
保存科学	沢田 正昭 奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター 遺物処理研究室長
岩石学	諏訪 兼位 日本福祉大学教授 (名古屋大学名誉教授)
木材組織学	木方 洋二 名古屋大学教授

職員

事務局長(兼管理課長)	荻本 亮
管理課	
主査	牧野 豊
専門員	大島 友子
主任	伊藤 弘
主事	伊藤 博樹 小杉 正樹 坂 美貴子

調査課

課長	中川 真文
課長補佐(兼主査)	高橋 信明 都築 暢也
主査	大竹 正吾 前田 雅彦 福岡 晃彦
	杉浦 茂
調査研究員	小澤 一弘 赤塚 次郎 小泉 渡
	増沢 徹 神谷 知幸 小池 一徳
	松田 訓 伊藤 秀紀 黒田 哲生
	石黒 立人 宮腰 健司 水谷 寛明
	栗林 典昭 今西 康二 西原 正佳
	酒井 俊彦 池本 正明 余合 昭彦
	秋田 幸純 小嶋 廣也 服部 俊之
	小川 芳範 鈴木 正貴 牧 謙治
	蟹江 吉弘 樋上 昇 館谷 一
	堀木 真美子 永井 宏幸 鬼頭 剛
	北條 真木 原田 幹
	(平成6年6月30日現在)

役員・職員の異動

▶退任(3月31日付)

理事長	高木 鐘三
監事	滝澤 尋文
主事	伊藤 晴美(6月13日付)

▶転任(4月1日付)

常務理事	豊田 次男 愛知県公文書館へ
事務局長(兼管理課長)	近藤 雅英 愛知県都市整備協会へ
主査	谷 隆盛 愛知県教育委員会福利課へ
調査課長	加藤 安信 愛知県立豊田南高等学校へ
課長補佐(兼主査)	野本 欽也 岡崎市立六ツ美中部小学校へ
主査	太田 芳巳 一宮市立千秋小学校へ
主査	服部 信博 愛知県立新川高等学校へ
調査研究員	川井 啓介 愛知県立岡崎北高等学校へ

埋蔵文化財愛知 No.37

発行	平成6年7月1日
編集	(財)愛知県埋蔵文化財センター
〒498	愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田 字野方802番24
TEL	0567-67-4161~4163
印刷	株式会社 クイックス